

## 第22回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」報告書

10月18日に17名で(他教室参加者など3名を含む)で開催いたしました。今回の題花は日本、中国原産のマユミ(檀、真弓、檀弓)です。秋の鮮烈な赤い蒴果と種、紅葉が印象的です。緻密で粘りのある材質のこの木から弓を作ったことから「真(まこと)の弓の木」の意で真弓となったそうです。



マユミの四角い蒴果と種  
紅葉したマユミの葉(右上)



雄花



雌花

万葉集ではマユミは12首詠われていますが、マユミそのものではなく弓のことを歌っているものがほとんどです。そのうち2首を教えてくださいました。1首は下級官僚である間人大浦(はしひとのおおうら)の大空を振り仰いだ時の白い弓を張ったような月(弓張月)を歌ったものです。もう1首は弦を外してから時間のたった弓が使えなくなるように一度終わった恋はもとはには戻らないと求愛を断る面白い東歌です。「和泉式部日記」の中の艶っぽいマユミの描写も教えてくださいました。和泉式部は天才型の非常に優れた歌人で、恋多きすこぶる魅力的な女性であったものの親王である恋人2人(2人は兄弟)と死別し、娘には先立たれるなど辛いことも多い人生だったそうです。先生のお話から和泉式部のことをもっと知りたくなりました。また、源氏物語の第27帖「篝火」に出てくるマユミについてもお話しくださいました。万葉の時代には東北に育っていたマユミを実際に見ることがなく、弓の木としてしか知られていなかったそうです。今回の東歌には安達太良真弓(あたたらまゆみ)が登場。平安時代になると東北から花や実が持ち帰られ広く知られるようになったと聞いて興味深く思いました。

これに加えて五畿七道(ごきしちどう)についての説明がありました。律令制の行政地域で、大和など畿内の五か国と7つの地域「西海道」「南海道」「山陽道」「山陰道」「東海道」「東山道」「北陸道」です。これらの言葉が現代でも残っていることは驚きでした。「東山道」の中の陸奥(みちのく)の国や当時の馬の役割のお話もしていただきました。いつものように皆で唱和して調べを楽しみました。東歌には方言が入っていて読みにくかったのですが、つかえないように気を付けて唱和しました。

先生の着物はマユミと弓の繋がりから矢羽根が散りばめられた模様です。帯はマユミの材が白いことから白地の帯、そして雄花(真ん中の雌しべが低く周りのおしべが押長い)をかたどったかのような帯留めでした。袖から見える長襦袢はマユミの種を思わせる濃紅です。



次回第23回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」のお知らせ

令和5年12月20日(水)

10:00 ~ 12:00 プララ杉田 505号室

参加費 1,500円 ◎参加申し込みは長谷川嘉子にお願いいたします

[mondlicht.y.20@gmail.com](mailto:mondlicht.y.20@gmail.com)

令和5年10月26日

文責: 三浦美智子・高木紀世子

◎12月20日(水)に都合の悪い方は講師に直接ご連絡ください。 [paksara3t@gmail.com](mailto:paksara3t@gmail.com) (cc長谷川)